

株式会社 森川鑿泉工業所

2014年度環境活動レポート

(対象期間:2014年 6月~2015年 5月)

本社全景図



作成日：2015年6月30日
更新日：

株式会社森川鑿泉工業所

環境方針

<環境理念>

私たちは、ますます深刻化する地球温暖化への対応や、有限である資源の有効利用が人類共通の重要課題と考えています。

さく井工事・温泉ボーリング・管工事・水質調査・地中熱利用省エネルギー工事等の事業活動における環境負荷の低減や社会に貢献するため、自然エネルギーの利用を推進とエコまちづくりの先導施策の提言を目指し、全社一丸となって自主的・積極的に、環境への取組を進めてまいります。

<行動指針>

1. 具体的に次のことに取り組みます。

①電力・自動車燃料・ガス・水道の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減

②廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進

③水資源の節水

④地中熱利用システムによる節電

⑤事務用品のグリーン購入

⑥本社・倉庫周辺の清掃、緑化活動の推進

これらについて環境目標・活動計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的な改善に努めます。

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定日：2013年03月01日

代表取締役

森 川 俊 英

□組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社 森川鑿泉工業所
代表取締役社長 森川 俊英
株式会社 モリカワソイル
代表取締役社長 磯野 栄一
- (2) 所在地
- 本 社 大阪府摂津市千里丘1丁目6番17号
茨木藤の里倉庫 大阪府茨木市藤の里2丁目7番17号
東京支店 東京都中野区中野5丁目3番24号 ヴァ・ドールビル7階
(株)モリカワソイル 大阪府摂津市千里丘1丁目6番17号
- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 総務部長 岸田 光隆 TEL : 06-6380-8181
担当者 技術者 長原 圭亮 TEL : 06-6380-8181

- (4) 事業内容
株式会社 森川鑿泉工業所
さく井・温泉ボーリング・管工事・水質調査・地中熱利用省エネルギー工事
さく井工事業 国土交通大臣許可(特-24)第22513号
管 工事業 国土交通大臣許可(般-24)第22513号
株式会社 モリカワソイル
地質調査業
地質調査業 国土交通大臣許可(質-25)第2411号
- (5) 事業の規模

売上金額 4億8000万円 受注件数205件

	本社	茨木藤の里倉庫	東京支店	(株)モリカワソイル	合計
従業員	12名	名	2名	3名	17名
延べ床面積	341.08㎡	2245.25㎡	48.4㎡	9㎡	2643.73

- (6) 事業年度 6月～5月

□認証・登録の対象組織・活動

登録事業者名： 株式会社 森川鑿泉工業所
対象事業所： 本 社
茨木藤の里倉庫
東京支店
(株)モリカワソイル

対象外： ナシ

活動：
株式会社 森川鑿泉工業所
さく井・温泉ボーリング・管工事・水質調査・地中熱利用省エネルギー工事
株式会社 モリカワソイル
地質調査業

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2012年	2013年	2014年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	76,362	108,318	67,149
廃棄物排出量	トン			
一般廃棄物量排出	トン	0.96	0.69	0.69
産業廃棄物排出量	トン	152	319	432
総排水量	m ³	240	310	307
地中熱利用システムによる節電提案		12	16	21

※電力の二酸化炭素排出量換算係数 0.355 kg-CO₂/kWh

□環境目標及びその実績

項目	年度	基準値	2014年 上段：通年		2015年	2016年
		(基準度)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)
電力の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	10,798	12,872	11,091	12,739	12,606
	基準年比	(2011年)	119%	103%	118%	117%
ガソリン・軽油の二酸化炭素排出量削減	kg-CO ₂	72,264	70,097	56,014	69,374	68,652
	基準年比	(2011年)	97%	78%	96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	83,113	82,969	67,149	82,113	81,258
一般廃棄物の削減	kg	960	931	690	922	912
	基準年比	(2011年)	97%	72%	96%	95%
節水	m ³	248	241	307	238	236
	基準年比	(2011年)	97%	124%	96%	95%
グリーン購入		—	60%	34%	60%	60%
地中熱利用システムによる節電提案	件数	(2011年)	16	21	22	22
		12				

*事務所・資材置き場周辺の清掃は実施しております。

*上記表の二酸化炭素排出量は電力及び自動車燃料の他わずかの都市ガス使用があります
(都市ガス2013年51kg-CO₂ 2014年44kg-CO₂ 2015年46kg-CO₂)

◎よくできた ○ままできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	次年度	評価（結果と次年度の取組内容）
電力による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
・空調温度の適正化（冷房28℃ 暖房20℃）	△	継続	当社の商品である地中熱利用の空調をしている。空調温度の適正化、不要照明の消灯を今後も継続して行う。
・昼休みの消灯	◎	継続	
・不要照明の消灯	○	継続	
・OA機器の省エネモード設定	○	継続	
自動車燃料による二酸化炭素排出量の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
・アイドリングストップ	○	継続	アイドリングストップ、急加速の抑制を今後も継続して行う。軽油の使用量の削減に努める。
・急加速の抑制	△	継続	
・冷房の控えめ使用	◎	継続	
・買換え時は燃費マークを優先する	○	継続	
一般廃棄物の削減			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
・分別ボックスの設置	◎	継続	分別し裏紙を使用している。今後も引き続き継続してゆく。
・裏紙使用	◎	継続	
・古紙のリサイクル化	○	継続	
節水			
数値目標	△	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
・節水の呼びかけ	△	継続	節水を呼びかけ、手洗い等の水量を適正化に努めた。今後も継続して行う。
・手洗い水量の適正化	○	継続	
グリーン購入			
数値目標	×	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
・事務用品のグリーン購入比率向上	○	継続	アスクルから事務用品購入に際してグリーン商品を選んでいる。今後も引き続き継続してゆく。
・			
地中熱利用システムによる節電提案			
数値目標	○	<input type="checkbox"/> 上方修正 <input type="checkbox"/> 下方修正 <input type="checkbox"/> 基準見直し <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	
・提案書を作成してPRする	○	継続	従来から積極的にPRを実施し成果に結びつきつつあります。
・ホームページの利用推進	○	継続	

□法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）	遵守
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（汚泥等）	○
高圧ガス保安法	高圧ガスボンベ 適正管理	○
Nox・PM法・府条例	排気ガス規制に適合した自動車の使用・適合ステッカーの添付	○

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

なお、関係当局よりの違反等の指摘は、過去3年間ありませんでした。

□代表者による全体の評価と見直し

地球環境に優しい工事(地中熱利用システムによる節電)の普及に努めている。工事も官公庁を中心に反応が徐々にではあるが来ています。当社の経営も地球環境に優しく、無駄・無理のない経営を証明するためにエコアクション21を認証取得し、取り組んでおります。「地球環境に優しい」を目標に全社員が取り組み、地中熱利用のPRを推進し、工事受注に邁進してきました。今後もエコ意識を持って任に当たるよう努めていきたい。

□環境活動の紹介

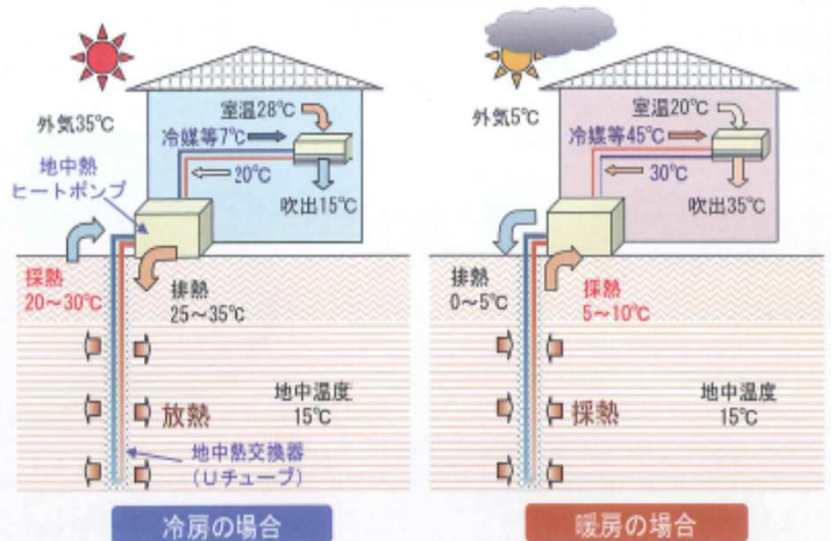
地中熱利用システムによる省エネルギー活動に取り組んでおります。

地中熱ヒートポンプシステムの特徴

地中熱交換器を設置して採熱・放熱

地中熱ヒートポンプシステムの中で普及率8割以上を占めるクローズドループ方式は、地中熱交換器、地中熱ヒートポンプ、室内機などから構成されます。

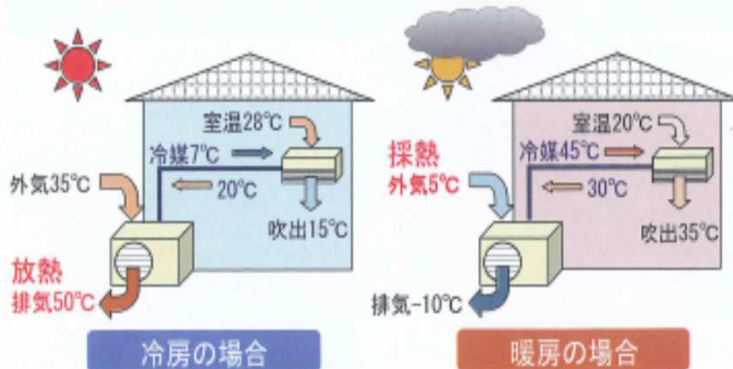
この地中熱交換器には垂直型と水平型がありますが、設置スペースが小さくて済む垂直型が広く普及しています。垂直型は、深さ数10~100m程度のポアホールにUチューブ(U字管ともいう)を挿入するもので、熱負荷に応じて必要総延長(深さ×本数)が決まります。



安定した地中温度を利用するメリット

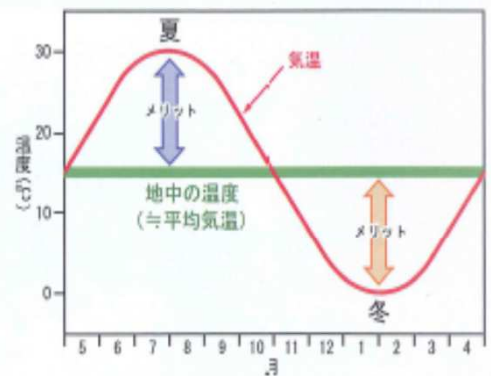
注) 図中の温度はイメージです。

冷暖房時に大きな節電効果



注) 図中の温度はイメージです。

空気熱源ヒートポンプのイメージ



安定した地中温度を利用するメリット

空気熱源ヒートポンプは、屋外の空気を熱源にしているために、夏は35°Cを超えるような暑い外気から温度を下げ、冬は5°Cくらいの冷たい外気から温度を上げなければなりません。

一方、地中熱ヒートポンプは、外気温に比べ夏は15~20°C低温の、冬は10~15°C高温の安定した地中熱を利用することで、空気熱源ヒートポンプで同じ温度の熱を作り出すのに少ない電力で済み、その結果節電が可能になります。